



学年の締めくくり ～次の1年の目標を立てるために～

学校長 赤堀 貴

修了式まで、あと僅かとなりました。学年の締めくくりです。入学当初はまだ小学生のようだった1年生も、すっかり中学生らしくなりました。2年生も既に最上級生のような貫禄が出てきました。成長期にある皆さんの1年間の変化は本当に大きいと感じます。この1年間の学校生活を振り返って、4月からの新しいスタートに向けてしっかり準備していきましょう。

第51回 卒業式 ～立派な態度でした～

3月12日(火)に青学年の卒業式が行われました。あいにくの雨模様となり、最後の記念写真撮影には苦労しているようでした。諸行事をコロナ前に少しずつ戻していますが、今回も在校生の送辞はありませんでした。あるとよかったです。在校生は、卒業式前の3月8日に「三年生を送る会」を開催し、感謝とお祝いの気持ちが伝わる素晴らしい会にしてくれました。1・2年生の皆さんも、先輩たちよりさらに素晴らしい卒業式になるよう、これからも中学校生活を頑張ってください。



振り返り Report ～中田中のスタンダード～

先月号では百人一首大会後の豚汁について、『振り返り Report』からの生徒の言葉を抜粋して紹介しました。この『振り返り Report』は、毎月末に全生徒がひと月の学校生活を振り返り、頑張ったこと、思っていること、考えていること、不安や悩み、意気込み、お気に入り、友達のこと、先生への質問などを記入し、それを学年全職員、養護教諭、専任教諭、副校長、校長と目を通し、学校全体の生徒の様子を把握する手段のひとつとしています。これが、中田中では20年近く続けられているのです。用紙のはじめには書き始めるきっかけとなるメッセージがあり、書く内容に困らないような工夫もしています。ほぼ全生徒が用紙を最後まで埋めるくらい書いてくれます。記入されたものを読んでいると、中学生独特の感性でつい微笑んでしまうものがあります。2月分の中にもありました。◎学習などについての不安を書いた続きに「不安で夜しか眠れません」(夜も眠れませんと言いたかったのか?) ◎「ストレスを発散するために、何かを殴ったり八つ当たりするのではなく10時位の人が少ない長後街道で叫ぶor歌うとストレスが解消されます」(よく誰もいない海で「バカヤロー」と叫ぶシーンがドラマなどではありますが・・・) ◎「調理実習でハンバーグを作った日、ハマ弁もハンバーグだった」(私も時々、ハマ弁と同じメニューの夕食の時があります)

自分ことについて自分の手で文字にして書く記していくことは、とても有意義なことです。これからも、特に自分の頑張ったことや嬉しかったことを毎月書いて、教えてください。一緒に嬉しい気持ちになれるのは幸せです。



新しい漢字 ～なぜできない?～

「こんなに新しい言葉が生まれているのに、新しい漢字が増えないのはなぜだろう」という小学生の言葉が紹介されている新聞記事を読みました。(読売新聞「編集手帳」より)確かに新しい言葉はどんどん増えているのに、新しい漢字ができることはないですね。不思議です。新しい漢字など思いもつきませんでした。こういう発想ができるのが子どもの凄いところだと思います。これまでの常識を覆すようなことは、若い人たちの力にかかっていますね。

【卒業生別れの言葉】

厳しい冬の寒さも和らぎ、木々の蕾も膨らみ始める季節となりました。今日、この佳き日に私達の為に心の籠った式典を挙げて下さり、ありがとうございます。又、ご多用の中ご出席くださいました校長先生をはじめ、先生方、保護者の皆様、卒業生一同心より御礼申し上げます。皆様から頂いた数々のお祝いや激励のお言葉を胸に、私達182名は卒業致します。この3年間を振り返ると、数多くの思い出がまるで昨日のように蘇ってきます。3年前、世界中で新型コロナウイルスの感染が拡大する中、中学校という新しい環境に大きな不安と緊張を抱きながら、私達は中田中学校に入学しました。しかし、すぐに分散登校となってしまうクラスメイトとも多くの関わりが持てないまま私達の3年間は始まりました。

何もかもが初めてだった1年生。中止となった足柄校外学習の代わりだった境川遠足が、私達にとって初めての行事となりました。各班で協力して野鳥を観察したり、クラス対抗のレクをしたりして、仲間と協力することや自然と触れ合うことの楽しさを学びました。

上級生としての自覚が芽生え、責任をもって行動するように心がけた2年生。私自身、生徒会副会長としての役割を果たすべく、先輩方の姿を追いかけながら一歩ずつ成長した1年になりました。2年生のときには、1年生ではできなかった文化発表会の合唱の部を行いました。はじめは意見が上手くまとまらずずれ違うこともありましたが、全員で一つの目標に向けて一致団結し練習したことで最高の一曲を歌い上げることができました。他にも、横浜遠足などで友達と共に過ごす中でルールや時間を守ること、周りを見て考えて動くことの大切さを学びました。

残された学校生活も僅かとなり、何気ない日常が尊く感じられた3年生。最高学年となり、進路選択も迫ってきて、様々なプレッシャーがかかるようになりました。思い通りにいかない焦りや不安に駆られることもありましたが、楽しむ姿勢を決して忘れず、何事にも全力で取り組みました。5月、貴重な体験をし、学びを深めた京都・奈良への修学旅行。東大寺や平安神宮、平等院鳳凰堂などの歴史的建造物を見学して廻り、建設された当時のことを想像しながら知識を深めました。又、奈良公園でソフトクリームを買ったり、鹿のカチューシャを着けて歩いたり、それぞれが2日間を満喫しました。帰りの新幹線でカードゲームをしながら修学旅行の感想を語り合ったときのことは、今になっても鮮明に思い出されます。そして10月、今までよりも大きな形で体育大会と文化発表会を行いました。特に文化発表会の合唱の部は、みなとみらいホールで各クラスが気持ちを込めた合唱をし、仲間と何かを成し遂げる喜びを味わうことができました。それから、仲間と喜びや悔しさなどの多くの感情を共有した部活動。仲間とぶつかりながらも切磋琢磨して練習に励みました。最後の夏の大会では、最高の結果が残せず悔しい思いをしました。それでも、最後まで頑張ることができたのは、3年間共に支え合った心強い仲間がいたからです。ここで作った仲間達との思い出は、きっとこれからも私達を支えてくれると思います。私達はこの3年間、新型コロナウイルスによって沢山のものを奪われました。予定されていた学校行事は多くが延期や縮小、変更になるなど、例年にはないことばかりでした。又、給食の時間も心が弾むような会話はできず、それぞれが黙食をするという、本当に寂しいものでした。制限の多い学校生活の中で、当たり前がどれだけ幸せなことなのかを実感しながら私達は成長していくことができました。それは、沢山の方の支えがあったからです。

いつも、そばで寄り添って下さった先生方。私達が進路や人間関係で悩んでいるとき、親身になって相談に乗って下さいました。先生方の温かいお言葉に何度も救われました。又、時には厳しく叱り、私達を正しい道へと引き戻して下さいました。決して私達を一人にせず、陰で見守って下さった先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。

在校生の皆さん、私達を慕って、頼ってくれてありがとうございました。皆さんのお陰で先輩としての自覚を持つことができました。これからの中田中学校を担っていくのは皆さんです。3年間はあっという間に過ぎます。この中田中の伝統、良さを受け継ぎ、今いる仲間と素敵な思い出を沢山作って下さい。

3年生の仲間達。くだらないことではしゃいだり、時には喧嘩をして気まづくなったこともありましたが、一緒に泣いたり、笑ったりしたことは、今となってはその全てがかけがえのない宝物です。それも今日で最後だと思うと、本当に寂しい気持ちでいっぱいです。中田中で過ごした日々を忘れずに、それぞれが自分の輝く未来を切り拓いていきましょう。

最後に、一番身近なところで支えてくれた保護者の皆様。定期テストや学校行事など、私が緊張している日には、「頑張って」や「自分を信じて」という力強い言葉をかけて背中を押してくれました。難しい年頃で素直になれず、冷たい態度をとってしまうこともありましたが、それでも突き放さず、最後まで話を聞いてくれました。どんなときでも私のことを第一に考え、ここまで育ててくれたこと、ずっと言えませんでした。心の中では分かっていました。本当にありがとうございます。そして、これからもたくましく成長していく私の姿を一番近くで見守っていて下さい。

中田中学校を卒業し、私達はそれぞれ別々の道を歩み始めます。正直、まだ別れたくない気持ちもあります。もっと仲間や先生方と、いつもみたいに他愛のないことで笑い合っていたいです。ですが、ついに今、旅立ちの日を迎えました。この先に見える景色はそれぞれ違っていても、この中田中で3年間、徹底してきた「当たり前のことを当たり前にする」ということを心に留め、邁進していきたいです。

最後になりますが、この中田中学校がこれからも素晴らしい歴史を刻んで行かれますことを祈念して、別れの言葉とさせていただきます。